

2011年度 定例総会議事録

表記の総会が、2011年6月4日(土)18時00分より大阪大学吹田キャンパス銀杏会館ホールにて開催された。以下の事項が報告・承認された。(委任状 89)

I. 2010年度事業報告(2010.04.01～2011.03.31)

1. 概況

東日本大震災で被害に遭われた皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。統計家としてこのような災害に対して何ができるのか内省しなければいけないと考えております。

2010年度は、椿広計会長・渡辺美智子副会長をはじめとする15名の理事、および廣津千尋・小西貞則の両監事の体制で活動した。

財務は引き続き苦しい状況にある。2009年度の事業報告にあるとおり、このままでは5年程度で破綻してしまうので、経費の削減を実施することにした。詳細については下の「4. 理事会」の項を参照されたい。

会員数は減少傾向にあり、2010年度末現在で550名という状況である。内訳は正会員526(534)名、学生会員24(19)名、賛助会員5(6)社、機関・団体購読は45(47)件である(カッコ内の数字は2009年度末のもの)。正会員と学生会員を足した会員数の推移は次のとおり。会員増への方策が望まれる。

	2007年度末	2008年度末	2009年度末	2010年度末
会員数	596名	570名	553名	550名

2. 総会の開催

総会を2010年5月20日(木)に統計数理研究所で開催した。

3. 評議員会

2010年5月20日(木)に定例評議員会を開催し、総会に付議する事項等について審議した。

4. 理事会

対面理事会を2010年9月8日(水)、12月21日(水)、2011年3月1日(火)の計3回、メール理事会を2011年4月6日(水)～19日(火)に開催し、学会の運営に関する事項について審議した。審議内容を要録として学会誌およびホームページに掲載した。

財務体質改善について実施または検討したことは次のとおり。

- (1) シンフォニカに対して事務委託費の軽減をお願いして了承を得た。2011年度から3年間この値下げが行われる。
- (2) 機関誌「応用統計学」の印刷費を削減することを考えている。ページチャージ制の導入と印刷費の低減である。前者については2011年度の評議員会で審議していただく予定。
- (3) チュートリアルのあるあり方

5. 機関誌編集

「応用統計学」Vol.39のNo.1およびNo.2・No.3合併号を発行した。Vol.39の掲載原稿は、

研究論文 5 編, その他 0 編である。総ページ数の推移は次のとおり。

	Vol.36	Vol.37	Vol.38	Vol.39
総ページ数	212 頁	156 頁	180 頁	130 頁

6. 応用統計学会論文賞の授与

「応用統計学」に掲載された論文から選考し、以下のように学会論文賞を授与した。

(1) 優秀論文賞

佐藤健一・柳原宏和・加茂憲一「離散分布の経時測定データにおける線形な変化係数の推測について」Vol.38(1), 19-29.

(2) 奨励論文賞

川田章広・塩濱敬之「格付・財務情報を用いた金利・リスクプレミアム期間構造の推定」Vol.38(2), 69-86.(著者の 2 人が受賞者)

7. 統計関連学会連合大会

統計関連学会連合大会を 2010 年 9 月 5 日(日)～8 日(水)に早稲田大学(早稲田キャンパス)(東京都新宿区)で開催した(応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会の共催)。また, 9 月 5, 6 日は, 横断型基幹科学技術研究団体連合主催の第 3 回横幹連合総合シンポジウム「横幹技術の役割の新局面」も同一会場で開催され, 共催セッションを設けた。

企画セッション(20 セッション), 一般セッション(36 セッション), コンペティション(23 件), 統計分析・データ・教育ソフトウェアセッション(6 件), チュートリアルセミナー, 市民講演が行われた。本学会の企画セッションとして応用統計学会論文賞の受賞者講演を行った。大会参加者とチュートリアルセミナー参加者の推移は次のとおり。

	2008 年度	2009 年度	2010 年度
大会	848 名	838 名	900 名
チュートリアルセミナー	377 名	220 名	288 名

8. 年会

2010 年度年会を 2010 年 5 月 20 日(木)に統計数理研究所で開催した。特別講演 2 件, 緊急提言 2 件, 一般講演 12 件の発表があった。また, ポスターセッションでは 7 件のポスター発表が行われ, 優秀ポスター発表として以下の 3 名を選出した。

生亀清貴(東京理科大学), 大草孝介(中央大学), 保科架風(中央大学)

参加者は 126 名(正会員(含協賛学会員)68 名, 学生会員 45 名, 非会員 13 名)であった。参加者数の推移は次のとおり。

	2008 年度	2009 年度	2010 年度
参加者数	115 名	91 名	126 名

9. チュートリアルセミナー

2010 年 5 月 21 日(金)に統計数理研究所で開催し, 三中信宏氏(農業環境技術研究所)に「分類思考と統計思考: R を用いた分類パターンの認識」について講演いただいた。参加者は 80 名(正会員(含協賛学会員)52 名, 学生 14 名, 非会員 14 名)であった。参加者数の推移は次のとおり。

	2008年度	2009年度	2010年度
参加者数	132名	21名	80名

10. 関連学会等との共催行事

主催または共催した行事は次のとおり。

- (1) 第1回 科学技術教育フォーラム「科学技術立国を支える問題解決教育—世界トップレベルをめざす産官学共創の人材育成—」, 2010年12月27日(月).
日本品質管理学会・日本統計学会・応用統計学会・統計数理研究所による共同主催
- (2) 講演会「社会における統計的問題解決の有用性とその実際」, 2010年6月6日(日).
主催：日本品質管理学会, 共催：応用統計学会, 統計関連学会連合統計教育推進委員会, 日本統計学会統計教育委員会

11. 関連学会等との協調

以下の各委員会に当学会よりそれぞれの委員会の担当理事および特別任務を担当する学会員が出席した。

- (1) 統計関連学会連合
理事会(渡辺副会長 2010年9月8日, 11月27日, 2011年3月5日, 4月9日)
- (2) 統計関連学会連合大会
2010年度大会運営委員会(瀬尾理事 2010年11月16日)
- (3) 統計教育推進委員会
メール委員会(渡辺副会長 2011年2月16日~27日)
統計用語WG検討会(渡辺副会長 2010年11月20日)
- (4) 横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)
総会(椿会長 2010年4月7日)

12. ホームページおよびメーリングリストの充実

ホームページを常に更新し, 学会員への情報公開を円滑にした。また, メーリングリストによる情報公開を行った。

その他の事業については応用統計学会のホームページをご参照下さい。

II. 応用統計学会 2010 年度会計理事報告資料
 (自 2010 年 4 月 1 日～至 2011 年 3 月 31 日)

1. 収入の部

(単位 円)			
勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 会費収入	2,560,000	2,652,500	▲ 92,500
(1) 正会員	2,395,000	2,490,000	▲ 95,000
(2) 学生会員	65,000	42,500	22,500
(3) 賛助会員	100,000	120,000	▲ 20,000
2. 雑誌売上収入	239,400	243,600	▲ 4,200
(1) 購読料収入	239,400	243,600	▲ 4,200
(2) バックナンバー売上	0	0	0
3. 広告料	60,000	200,000	▲ 140,000
4. 別刷り・カラー印刷収入	84,250	150,000	▲ 65,750
5. 年会等関係収入	375,845	670,000	▲ 294,155
(1) 年会収入	321,000	270,000	51,000
(2) チュートリアル収入	54,845	400,000	▲ 345,155
6. 雑収入(著作権料・利息等)	68,055	70,000	▲ 1,945
当期収入合計	3,387,550	3,986,100	▲ 598,550
前期繰越金	2,643,662	2,643,662	0
収入合計	6,031,212	6,629,762	▲ 598,550

会費収入に関する補足

2011 年 3 月 31 日現在会員 550 名(2011 年 3 月末で退会予定の 11 名を含める)

内訳 正会員 526 名

学生会員 24 名

正会員収入内訳

2009 年度まで 175,000 円(20 名) ※ 2006-2009 年度 2 名, 2007-2009 年度 2 名,
2008-2009 年度 5 名, 2009 年度 11 名

2010 年度 1,380,000 円(276 名)

2011 年度から 840,000 円(168 名) ※ 2011 年度 167 名, 2011 年-2012 年度 1 名

学生収入内訳

2009 年度まで 17,500 円(2 名) ※ 2005-2009 年度 1 名, 2008-2009 年度 1 名

2010 年度 22,500 円(9 名)

2011 年度から 25,000 円(10 名)

会費納入率 92.77%(前年度に納入された 1,060,000 円を含める)

機関購読数 45 件

2. 支出の部

(単位 円)

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 機関誌関係費	1,554,902	2,170,000	△ 615,098
(1)印刷費	1,168,650	1,650,000	△ 481,350
(2)校正費	150,000	150,000	0
(3)英文校正費	0	0	0
(4)通信・発送費	236,252	370,000	△ 133,748
(5)PDF化費	0	0	0
2. 年会等関係費	370,431	520,000	△ 149,569
(1)年会支出	328,471	320,000	8,471
(2)チュートリアル支出	41,960	200,000	△ 158,040
(3)共催国際会議支出	0	0	0
3. 管理費	1,494,292	1,530,000	△ 35,708
(1)事務委託費	1,160,000	1,160,000	0
(2)消耗品費	114,980	120,000	△ 5,020
(3)会議費	58,784	80,000	△ 21,216
(4)雑費	84,463	80,000	4,463
(5)名簿作成費	0	0	0
(6)事務合理化費	10,330	20,000	△ 9,670
(7)選挙費	65,735	70,000	△ 4,265
4. 役員旅費補助	153,320	150,000	3,320
5. 関連学会協調事業費	108,000	180,000	△ 72,000
(1)関連学会年会費	80,000	80,000	0
(2)連合大会	28,000	100,000	△ 72,000
6. 学会賞	46,615	70,000	△ 23,385
当期支出合計	3,727,560	4,620,000	△ 892,440
収支差額(次年度繰越金)	2,303,652	2,009,762	293,890
支出合計	6,031,212	6,629,762	△ 598,550

※「応用統計学」Vol.39-1, 39-2&3

2010 年度への繰越金の内訳

(単位 円)

項目	2010年3月31日現在	2011年3月31日現在
銀行預金	503,133	399,990
郵便貯金	1,338,421	838,863
定額貯金	500,000	500,000
郵便振替	301,588	563,268
現金	520	1,531
合計	2,643,662	2,303,652

会計監査報告書

応用統計学会殿

応用統計学会会則に基づき、2010年4月1日より2011年3月31日までの会計経理を監査した結果、会計報告のとおり相違ないことを認めます。

2011年4月16日

監事

広津千尋
小西貞則



III. 2011 年度事業計画(2011.04.01～2012.03.31)

1. 機関紙の発行

「応用統計学」Vol. 40 を発行する。

2. 応用統計学会論文賞の授与

「応用統計学」に掲載された論文の中から優秀な論文に学会賞を授与する。

3. 年会の開催

2011 年度年会を 2011 年 6 月 4 日(土)に大阪大学吹田キャンパス銀杏会館ホールにて開催し、総会、および評議員会を行う。大阪大学大学院医学系研究科・医学部との共催である。

4. チュートリアルセミナーの開催

2011 年 6 月 3 日(金)に大阪大学吹田キャンパス銀杏会館ホールにて開催し、藤澤洋徳氏(統計数理研究所)に「ロバスト推測～外れ値への対処方法～」について講演いただく。

5. 統計関連学会連合大会での企画セッション

2011 年度統計関連学会連合大会を 2011 年 9 月 4 日(日)～7 日(水)に九州大学(伊都キャンパス)およびアクロス福岡にて開催する。応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会が共催する。企画セッションとして、次の 3 つを行うことを予定している。

(1) 応用統計学会 学会受賞者講演

(2) 環境・生態データのモデル化と解析

(3) タイトル未定(応用統計学会と日本リモートセンシング学会の共催企画セッション)

6. チュートリアルの企画

専門書を最近出版された先生にその専門書の解説という形のチュートリアルを行ってもらうことを予定している。

7. 研究集会

必要に応じてその他の研究集会を開催する。また、科研集会を支援する。特に東日本大震災後の復興や災害予測における統計家の役割についてコンセンサスを形成するため、研究集会の開催を検討する。5 月 25 日現在、次の 2 つが予定されている。

(1) 「東日本大震災に関する懇談会」、5 月 28 日(土)、電気通信大学、主催：日本品質管理学会、協賛／共催：応用統計学会ほか

(2) 「統計関連学会連合の理事懇談会」、6 月 2 日(木)、大阪大学

8. 関係学会との協調

統計関連学会をはじめ関係学会との協調を促進する。

9. 財務体質の改善

会員増強および経費削減に努める。後者については機関誌の印刷費の低減を検討する。

10. 学会員への情報公開

ホームページの充実をはかり、学会員への情報公開を円滑に行う。

11. その他

以下の会合と協調して事業を進めると共に、追加で依頼があれば適宜検討し、可能な限り協力する方向で協議する。

(1) 横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)の加盟を継続

(2) リスク研究ネットワークの加盟を継続

IV. 応用統計学会 2011 年度予算案

(自 2011 年 4 月 1 日～至 2012 年 3 月 31 日)

1. 収入の部

(単位 円)

勘 定 科 目	2010 年度予算	2010 年度実績	2011 年度予算
1. 会費収入	2,652,500	2,560,000	2,495,000
(1)正会員	2,490,000	2,395,000	2,320,000
(2)学生会員	42,500	65,000	55,000
(3)賛助会員	120,000	100,000	120,000
2. 雑誌売上収入	243,600	239,400	226,800
3. 広告料	200,000	60,000	90,000
4. 別刷り・カラー印刷収入	150,000	84,250	100,000
5. 年会等関係収入	670,000	375,845	470,000
(1)年会収入	270,000	321,000	270,000
(2)チュートリアル収入	400,000	54,845	200,000
6. 雑収入(著作権料・利息等)	70,000	68,055	70,000
当期収入合計	3,986,100	3,387,550	3,451,800
前期繰越金	2,643,662	2,643,662	2,303,652
収入合計	6,629,762	6,031,212	5,755,452

個人会員の会費納入率を 90%として

正 会 員……464 名(515 名×0.90)×5,000 円=2,320,000 円

学生会員……22 名(24 名×0.9)×2,500 円=55,000 円

賛助会員……6 件×20,000 円=120,000 円

2. 雑誌売上収入 団体会員購読料収入……54 部(45 件)×6,000 円×0.7 (マテマテイカ手数料)=226,800 円

2. 支出の部

(単位 円)

勘定科目	2010年度予算	2010年度実績	2011年度予算
1. 機関誌関係費	2,170,000	1,554,902	2,170,000
(1)印刷費	1,650,000	1,168,650	1,650,000
(2)校正費	150,000	150,000	150,000
(3)英文校正費	0	0	0
(4)通信・発送費	370,000	236,252	370,000
2. 年会等関係費	520,000	370,431	520,000
(1)年会支出	320,000	328,471	320,000
(2)チュートリアル支出	200,000	41,960	200,000
(3)共催国際会議支出	0	0	0
3. 管理費	1,530,000	1,494,292	1,120,000
(1)事務委託費	1,160,000	1,160,000	750,000
(2)消耗品費	120,000	114,980	120,000
(3)会議費	80,000	58,784	80,000
(4)雑費	80,000	84,463	80,000
(5)名簿作成費	0	0	0
(6)事務合理化費	20,000	10,330	20,000
(7)選挙費	70,000	65,735	70,000
4. 役員旅費補助	150,000	153,320	150,000
5. 関連学会協調事業費	180,000	108,000	110,000
(1)関連学会年会費	80,000	80,000	80,000
(2)連合大会	100,000	28,000	30,000
6. 学会賞	70,000	46,615	70,000
小計	4,620,000	3,727,560	4,140,000
7. 予備費	2,009,762	2,303,652	1,615,452
当期支出合計	6,629,762	6,031,212	5,755,452

- 1. 機関紙関係費 印刷費…40巻1-3号の1号につき55万円として算出
- 5. 関連学会協調事業費 関連学会年会費…横断型基幹科学技術研究団体連合年会費5万円、統計関連学会連合年会費3万円を含む

V. 「応用統計学」発行の経費削減策

1. ページチャージの創設

- (1) 刷り上がり10ページを超える場合には、10ページを超えた部分に対して、1ページあたり1万円を著者に支払っていただく。(例：9ページ…ページチャージ無し、10ページ…ページチャージ無し、11ページ…ページチャージ1万円、20ページ…ページチャージ10万円)
- (2) 特集などの依頼原稿の場合も、上記のページチャージを適用する。依頼時にその旨を連絡する。
- (3) 例外として、総合報告などのように、ページ数があらかじめ多くなるのが前提となる依頼原稿の場合には、上記の「10ページ」の制限を緩和させることもある。その場合は、会長と編集理事が合議して制限分量を決める。

2. 別刷りの有料化

- (1) 現在、別刷りは30部までが無料で、それを超える部分は有料としている。今後は、すべて有料とし(30部の無料を廃止)、実費を徴収する。
- (2) 掲載原稿のPDFファイルは無料で著者に提供する。

3. 施行日

上記の(1)と(2)は、2011年6月5日(総会の翌日)から施行する。当面は、投稿された際に、上記の(1)と(2)を編集理事が著者に確認し、著者の了解を得た上で、審査の過程に入る。2011年6月4日以前に投稿されている論文については、従来のルールを適用する。